



## No24 どの子にも効果的な授業力アップ

## 学習適応への小さな工夫(3)

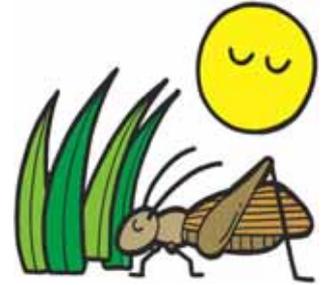
宇都宮市の小・中学校の先生方へご挨拶

「宇都宮市特別支援教育基本計画」の策定にこじつけて、豆だよりの発信を1年間ほど怠ってしまい申し訳ありませんでした。

基本計画の1つ目の方向にも打ち出しましたように、学校教育だけでなく、一般社会においても、特殊教育から特別支援教育への考え方の移行や、発達障害等についての啓発は大きな課題となっております。

これまで、特別支援教育豆だよりは、多くが教職員向きでした。保護者にも啓発が必要とのことで、時折、保護者向けの豆だよりも出しておりましたが、学校では保護者への配布について、どう扱ったらよいか戸惑いもあったかと思えます。

そこで、今後の啓発紙の発行については、学校(教員)向きはこれまで同様「豆だより」とし先生方に活用していただくとともに、新たに保護者・市民向けには、「うつのみや 子ども かがやきだより」を発行することで、すべての市民が適切な対応や支援にあたるよう意識を広げてまいりたいと思います。従いまして、この「豆だより」は、先生方の手元にあって、ちょっと気付いた時にみていただくようなものとしてご活用ください。



## 今月号のテーマ なかなか注意集中ができない子への手立ての工夫

## メリハリと変化を

教室から飛び出す子などいって学級崩壊の状況にあった学級で、ある音楽の出授業を見せて頂き驚きました。音楽室に入るとすぐに毎月の歌の練習、四拍子の指揮振りの練習、新曲のCD鑑賞、鍵盤練習と次々とテンポよく授業が進み、誰一人遊んでいる子がいませんでした。変化とメリハリのある授業は子どもたちを飽きさせません。(注)何をしたらよいか分からない空白の時間があると、我慢が出来ない子は教室にいられないのです。

この授業を見た時、ある民放で放映していた子ども向け番組を思い出しました。30分の番組ですが、一つの課題やお話が4~5分位で次から次へと変わります。前述の授業と同様に、変化はあるのですが、大体次に何をやるのかがわかっているのが不安ではないのです。

また、次に何をやるかを、さし絵で提示することで(例えば鍵盤練習に移るときは、ピアノの絵と練習する曲目やページなどで)何も言わなくても、子どもたちはさっと準備に移れるのです。

## 視写教材など作業的なもので

作業とは、授業の中に動きを取り入れることで、ADHDの児童生徒には、極めて有効なスキルです。例えば、ただ漠然と「板書を写しなさい」と言うだけでは、面倒がってやらなかったり、乱暴に書いてすぐに止めてしまったりする児童生徒も、「左の文章とそっくりに、右に写しなさい」「写すだけでいいです」ということを指示して板書と同じか、あるいはもっと整理されている参考書のまとめのようなもののコピーを渡す。ただそれだけの小さな工夫で、10分から20分は集中して書くことができます。

ノートに写すことは、記憶の定着に有効ですし、ノート(記録)がきちんと蓄積されていきますので、親からの評価も、自分自身としての評価も上がります。

前項の、「メリハリと変化」とも併せて授業の中に取り入れられるものではないかと思えます。